

# 柏第五中学校 R6 学校自己評価

<b>2 (学校運営) ○○</b> 教職員:85.3% 生徒:93.3%	[結果] 今年度、成績の前後期制やノーペル活動の設定、行事の見直し（春の体育祭・合唱祭の改編等）を行いながら、生徒主体の学校行事や委員会活動などの取り組みを目指した。9割以上の生徒が学校生活を楽しく充実したものとして肯定的な回答をしている。
<b>15(授業) ○△</b> 教職員:100% 保護者:63.3%	[結果] 学習指導11項目中6項目について教職員の肯定的な回答が100%となっており、よく取り組んでいるという自覚を持っている。授業の学習課題や目標を示し、わかりやすい授業になるよう努めている。また個々に応じた授業づくりにも意識して取り組んでいることがわかる。このことは生徒アンケートから、8割以上の生徒が「授業についてわかりやすい」と答え、9割以上の生徒が「生徒一人ひとりを大切にして授業をしている」と回答していることからも授業実践に熱心に取り組む教職員が多いことがわかる。しかしながら、生徒が「学習課題や目標を理解している」と感じている保護者は6割程度である。
<b>16(授業) ○△○</b> 教職員:100% 保護者:68.0% 生徒:85.8%	[改善方策] 引き続き、教職員には前向きな姿勢で生徒に「わかりやすい授業」を工夫して展開してもらうよう努めてもらう。HPや学校だより・授業参観・担任レベルの学級通信の工夫など授業に係る積極的な発信を更に増やし、保護者に関心をより一層もってもらえるよう努める。
<b>23(授業) ○△○</b> 教職員:91.2% 保護者:66.6% 生徒:93.7%	[結果] 教職員は、生徒の悩みに親身に相談にのり、気軽に相談できる機会・雰囲気を作っていると認識している。生徒は、「先生方は親身に相談にのってくれる」という肯定的回答が9割以上であるが、気軽に相談できるかという問いには2割以上の生徒が相談できない傾向がある。生徒自ら教職員に相談できていない生徒が一定数いる。 [改善方策] 1学期に教育相談（希望者のみのチャンス相談）、2学期に担任または先生を選択して教育相談という機会を設けているが、日頃から教職員と生徒の信頼関係や話しやすい環境の構築を教職員に心掛けさせるように努めさせたい。
<b>34(生徒相談) ○△</b> 教職員:100% 生徒:78.9%	[結果] 毎年1回、校則検討委員会を開き、生徒・保護者の意見を取り入れ隨時、本校の「学校生活のきまり」は見直されている。今年度は、冬場のダウンコートの着用可があげられる。来年度は制服について標準服の本格実施となり、時代に即した制服の運用が開始される。また夏場のポロシャツ導入を予定している。
<b>38(校則) ○△</b> 教職員:100% 保護者:69.3%	[結果] 4割強の教職員が家庭学習に取り組むような仕掛けや声掛けができるないという認識がある。生徒や保護者も同様の自覚や認識である。教職員の中には、宿題を出すことで、登校渋りなどがある現在、家庭学習の指導について深くできていないという悩みもある。 [改善方策] 生徒自ら家庭学習をしようというきっかけづくり（委員会活動の効果的な運用・オンラインドリルなど比較的平易な課題の取り組み・簡単な課題等）を進めていく。
<b>19(専門性) △○</b> 教職員:67.6% 生徒:97.1%	[結果] 9割の生徒が教職員の専門性を認めているが、教職員自身は研修や研鑽が足りていないと感じている。 [改善方策] 校内の研究部が中核をより一層担い、教職員全体の専門性向上について牽引し、相互授業参観・専門書等を読む、適切な研修企画を立案・実施するなど自己研鑽の機運を高めていく。個々の研修については、長期休業などをを利用して教科・生徒指導・新たな教育的課題など多様な学びを推進していく。
<b>44(進路指導) △△△</b> 教職員:76.5% 保護者:64.4% 生徒:74.1%	[結果] 昨年度に課題として挙がっていたため、全教職員で「キャリア教育を努力しよう」という問題意識の共有があり、機運を高めて努力をした。よく取り組んだという認識は前年比で15%上がった。 [改善方策] 1学年で職業人講話、2学年で起業体験や地元農家講話、3学年で国際理解集会・上級学校講演会等、発達に応じた教育を実施するというロールモデル的な流れができてきたため、「五中キャリアプログラム」を確立・構築していく。
<b>45(読書活動) ○△△</b> 教職員:85.3% 保護者:37.0% 生徒:54.7%	[結果] 読書活動については、昨年度も本校の課題として挙がったものである。毎日朝読書の時間を10分とっているが、それ以外で本を読む機会がないという生徒もいる。保護者も家庭で読書をしている姿を見ていないと思われる。 [改善方策] 授業での図書館や図書教材の利活用（国語・社会・理科・美術・家庭科）が見られるので、その裾野を伸ばす方策を考えたい。また図書委員会の活動を活性化させるよう図書館指導員と司書教諭の連携をさらに深める。CSが現在考案してくださっている「本の紹介」企画などを進めていく。

※今年度、保護者アンケートに「わからない」という項目を選択肢に入れたため、教職員の授業や接し方の項目について、わからないと回答する保護者が多かった。そのためパーセンテージが低めに出ている。